北陸地区臨床倫理事例研究会

代表：金沢大学附属病院

１．これまでの取組内容
２．具体的な成果
３．今後も継続して実施する必要性
４．今後の取組と期待される効果

１．これまでの取組内容

北陸地区臨床倫理事例研究会

- 北陸での臨床倫理について検討する会として創設
- 当研究会の目的：臨床倫理に対する考え方を学び、事例検討を通じて医療者の倫理的感性を高め、臨床倫理の実践力を向上させる
- 主な取組内容

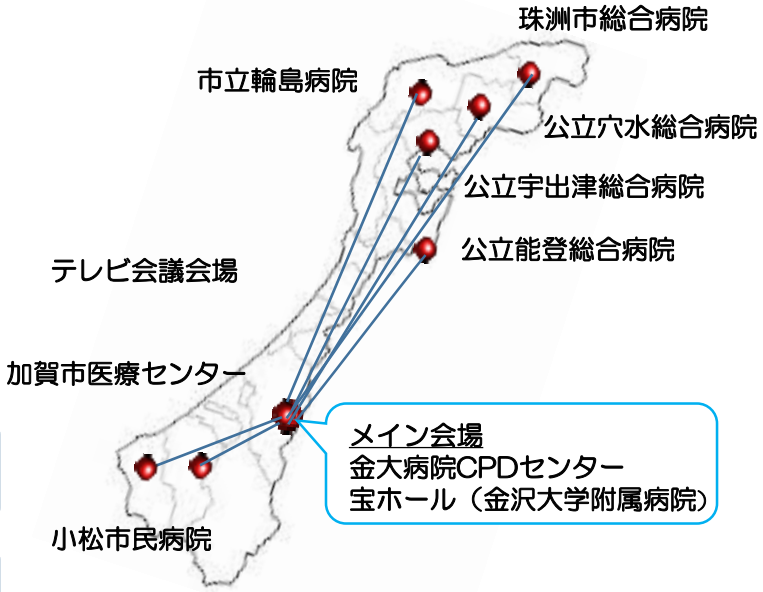
第1回（2012年度）：近畿地区の倫理研究会の活動紹介、北陸地区の専門看護師による倫理調整のシンポジウム、石垣靖子先生の講演

第2回（2013年度）：前年にTV会議システムを持つ金大病院CPDセンターが併設され、能登地区の5施設と中継し開催

第4回（2015年度）：TV会議システムに加賀地区が加わり7施設へ拡大（計8会場）

第5回（2016年度）：入門コースに加え、アドバンスコースを併設、講義はコース別、事例検討、特別講演は、両コース共に実施

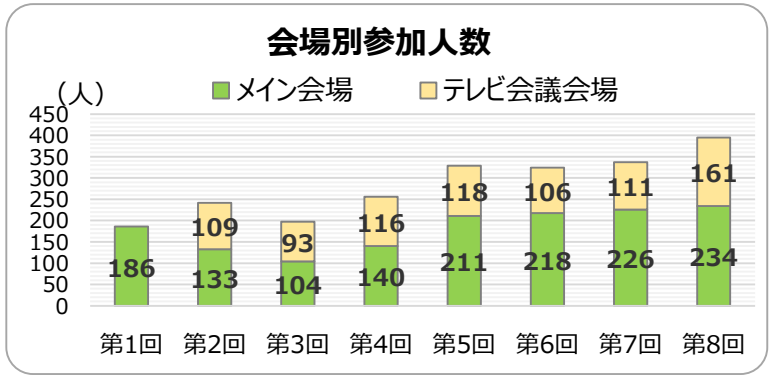
第9回（2021年度）：オンライン（個人＋集合会場）にてアドバンスコースとして開催

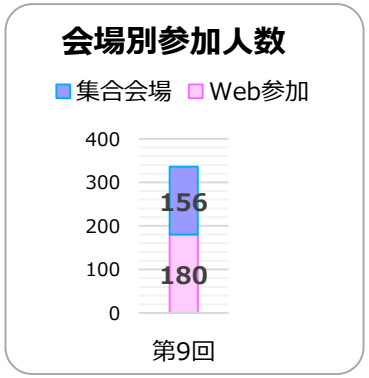


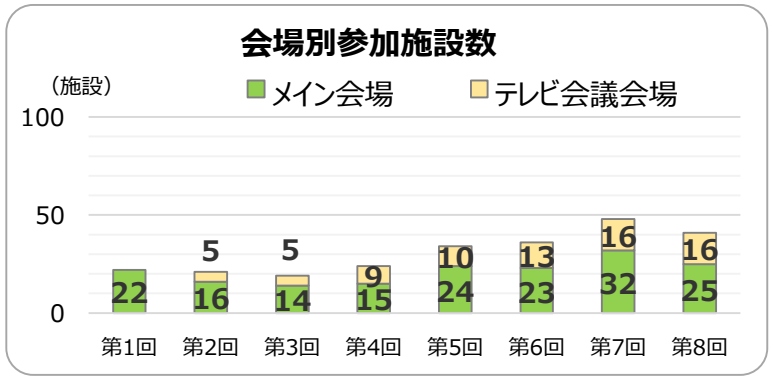
2．具体的な成果

北陸地区臨床倫理事例研究会

参加人数・参加施設の推移



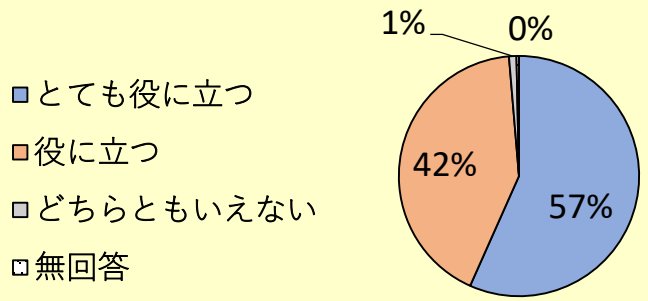




TV会議システムやオンラインを用い、移動の負担を最小限とし、県内一斉に数百人で、各講師の講演や、倫理的視点から考えたい事例についてグループワークで検討している

参加者の評価・意見

第９回北陸地区臨床倫理事例研究会アンケートより



毎回のアンケート（第2回～第9回）の「とても役立つ」「役に立つ」の合計は常に9割を超えている

具体的な意見（第9回アンケートより）

- 「日々起こる倫理的問題に速やかに気づき対応できるようになった」
- 「倫理的に悩んだことを他者に話すことでケア等に発展することがあった」
- 「ACPの大切さや必要性を学ぶことができ、患者と最期のことを話す勇気が出た。実際に話すことができ、多職種チームでのカンファレンスで方向性を検討できた」

3．今後も継続して実施する必要性

北陸地区臨床倫理事例研究会

がん患者を取り巻く倫理的問題の山積

患者・家族の特性・背景

・価値観の多様化
・家族の多様化（独居・ヤングケアラー　）
・がん患者の高齢化（認知機能低下を伴う患者の増加）
・AYA世代の患者の妊孕性
・がん患者の就労
・セクシャリティの多様化

意思決定支援の重要性

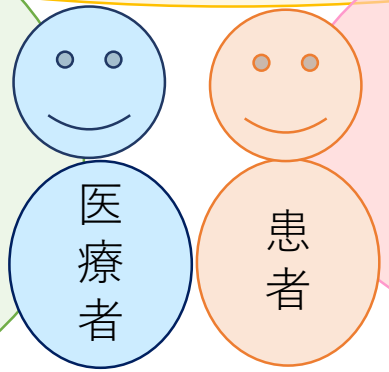
アドバンス・ケア・プランニングの重要性

患者への不利益の増大

医療者のジレンマの増大

診療技術の進歩

- 高度先進治療（ロボット手術等）
- 免疫チェックポイント阻害薬
- 遺伝子治療（がんゲノム検査）
- 陽子線治療など



ポストコロナ

・入院中の面会制限（オンライン面会）
・治療の遅延
・病状説明時の同席家族の制限
・がんサロンの中止や縮小

４．今後の取組と期待される効果

北陸地区臨床倫理事例研究会

- **活動の継続に向けて**

：医療チームメンバー参加の推進

（研修の周知方法の工夫）

ファシリテーター養成の推進

第9回　参加者職種内訳

看護職221名、助産師9名、医師4名、
公認心理士1名、介護福祉士1名

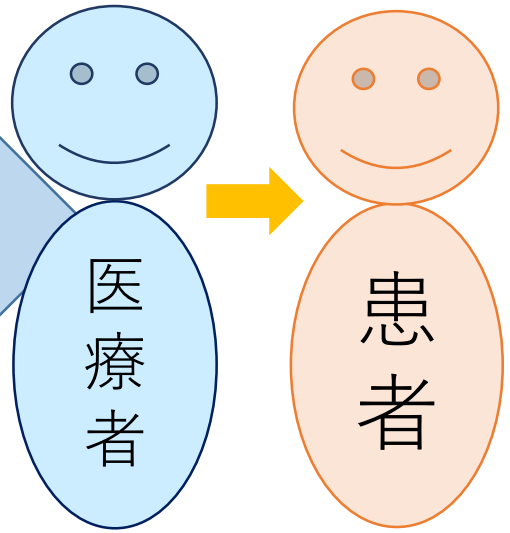
- **継続して取り組むことでの効果**

北陸地区臨床倫理事例研究会開催

医療者が倫理的姿勢について学ぶ機会となる

事例検討を通して患者・家族の倫理的問題について検討方法を体験学習できる

意思決定支援やACPについて学ぶ機会となる

受講した医療者がより倫理的に適切な行動を取れるようになり患者への支援の向上につながる

実践者が学ぶことで
直接患者への医療に繋がる